

# さんぽくまちづくり通信

第 2 号

発行 山北地区まちづくり協議会  
発行日 平成 24 年（2012 年）8 月 1 5 日

事務局 村上市 山北支所 地域振興課 自治振興室 （住所）〒959-3993 新潟県村上市府屋 232  
（TEL）0254-77-3111 （FAX）0254-77-2217 （E-mail）s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

## 集う笑顔 広がる融和



## 地域の皆さんに可愛がってもらえる協議会に

山北地区まちづくり協議会も3月24日に設立してからもうすぐ半年が経とうとしています。

人間に例えればまだまだ立って歩くこともできない赤ん坊が、周りの皆さんに可愛がってもらいながら顔を覚えてもらい、体の五感を使っているいろんなものを吸収し、成長している段階でしょうか。

まちづくり協議会もまさに同じようなもので、誰が何をやっているのか、地域の皆さんによく知られていない現状だと思います。

早く協議会の活動や委員の皆さんの顔を地域の皆さんに覚えてもらい、地域の皆さんと共に育っていける組織になりたいと考えています。



住んでいる人が笑顔で暮せる地域に

まちづくり協議会では今、委員の皆さんが安全・安心部会、環境・文化部会、産業・交流部会、コミュニティ部会、企画部会という5つの部会に分かれて25年度からまちづくり協議会が取り組む事業の検討を行っています。

また、7月14日には8世帯しかない集落で移住者の受入れや農作業体験などのイベントを行いながら生き生きと暮している十日町市池谷集落というところへ視察研修に行ってきました。

山北地区のまちづくり協議会でも住んでいる人が笑顔で暮らし、住んでよかったと思える地域づくりへの活動を進めていきますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

# まちづくり協議会は楽しいヨ!!

今回はまちづくり協議会委員の皆さんからのコメントを紹介します。



大代集落  
富樫直年さん

最初は小さい集落だから意見が届かないとうまくないということで参加しました。参加してみると問題が大きすぎてどうなるのか私もまだ想像が付きません。それでも、『自分たちの地域のためなんだし、何かしなければならぬよな』と思って今は活動しています。

「NPO法人おたすけさんぽく」が多くの人に支えられてここまで来れたため、今度は自分の取り組みが少しでも地域のためになればと思っています。「人のつながり」を大切に協議会の活動に取り組みます。



下大蔵集落  
齋藤千栄さん



府屋集落  
工藤道由さん

自分を育ててくれた山北へ何かしら恩返しができるば、と思い公募参加です。この地区が抱える共通の深刻な悩みは「過疎化」でしょう。この協議会は「定住化」を目指しているのですが、一年ぐらいい結論がでたり、成果が実を結ぶものでもないでしょう。ただ次の世代へは希望を持たせたいものです。十日町池谷地区への視察に参加しましたが、池谷はまさに過疎に直面していましたが「未だ山北は」と、私は思いを新たにしています。

## 【集落の元気づくり支援事業実践紹介】

まちづくり協議会では、集落の課題解決や集落を活性化させるための事業に対して助成金を交付して集落の取り組みを支援する「集落の元気づくり支援事業」を実施しています。今年度は集落から31の事業申請があり、6月に支援事業としての採択を審査する審査会を経て、現在各集落で取り組みが行われています。

申請のあった事業は、集落名を表示した案内看板の整備やゴミ小屋の整備など集落の景観や環境の美化を図る事業、集落住民の融和のための事業、避難誘導看板整備など防災関係の事業など、集落のみなさんが自らの手で集落を住みよくしていくための様々な取り組みが行われています。今回はその中から岩崎集落の事例を紹介します。

## 長年の懸案事項が解消されました



岩崎自治会長  
増子宗厚さん

岩崎のごみ収集場所4ヶ所のうち2ヶ所はカラスやネコのいたずらが多く、ゴミ小屋の設置がかねてから望まれていました。今回2ヶ所にゴミ小屋を設置したことで、長年の課題が解消でき、集落みんな喜んでいました。



(整備されたゴミ小屋)

# 皆さんも一緒に活動しませんか？

桑川集落  
渡辺隆史さん



学校行事や地域行事は必ず出るようにしています。義務ではなく、いろんな人と話したり、いろんな場所に行くのが好きな性格なんで。協議会は山北を再確認できる場だと思っています。たくさんの人に参加してもらっていろんな意見交換ができればいいなと思っています。

山北は子育てする自然環境が充実しているので、子どもが自由に工夫して遊べる子育てが必要だと感じています。協議会は自分の子育てに対する声を地域に届けることのできる良い機会だと思い参加しました。そしてたくさんの声が地域に届けられるよう、多くの人に参加して欲しいと思います。

集落の年齢層が変わってきたため、集落を見直すいい機会だと思います。協議会は世代を越えた方々の話が聞けるため、大変勉強になっています。どんなことができるかまだ明確にはなっていませんが、今まで公民館や集落で大切にしてきた活動などをこれからも守っていきましょう。そのためにぜひ、この会を使ってください。



長坂集落  
佐藤優博さん

野球スポ少のコーチや、地域活動は子どもたちのためになると思い参加しています。山北は、ボランティア活動をしている人がたくさんいたり、素晴らしい地域だと思います。今までの活動を続けながらこの素晴らしい地域のよさを外に発信していきたいと思っています。



北赤谷集落  
本間まゆみさん



寒川集落  
斎藤千代文さん

今までは行政の立場で様々な制約がありましたが、これからは民の立場で地域づくりを引っ張っていったらと気持ちを新たにしています。たくさんの人に参加していただき、みんなでもう一度地域を活性化させましょう。

集落公民館長になって、集落活動は若者の協力が必要だと強く感じました。そのためにも、日頃から若者とコミュニケーションが大切と考え、積極的に声をかけるようにしていて、今はそれが楽しみにもなっています。協議会も地域の若者と話しができて最高です。次の集まりが楽しみでなりません。

北黒川集落  
斎藤誠さん



伊呉野集落  
岩崎貴裕さん

今まで商売ばかりやってきたので、少しでも地元の役に立てればと参加しました。人口減少は商売にも大きな問題です。外から人がたくさん来て、山北の商店から1本でも多くコーラが売れるように！！そんな賑わう活動をみなさんとしてみたいと思っています。



北中集落  
小野清さん

# 集落の元気づくり計画の策定を支援しています

集落の役員のなり手がいない、子どもや若い人がいなくて活気がないなど、集落が抱えている問題は山積しています。こんな時だからこそ自分たちの集落がこれからどうなっていくのか、どのようにしていきたいのか、一緒に考えてみませんか。

集落の元気づくり計画の策定をまちづくり協議会がお手伝いをしています。

山北地区の元気づくりのためには、それぞれの集落がまず元気であることが必要であるとの考え方から、集落の現状を見つめ、これからの

集落の明るい未来を集落の皆さんと一緒に考えましょうというのが「集落の元気づくり計画策定支援事業」です。

計画策定にあたっては、計画策定の資金として1集落あたり2万円



の支援金の助成とまちづくり協議会事務局の自治振興室職員が計画づくりのお手伝いをさせていただいています。

府屋学校町では既に計画策定が終了し、計画に沿って事業への取り組みが始まっています。

また、小俣、荒川、下大蔵、長坂・遠矢崎、北赤谷集落では現在計画を策定中で、年内中の完成を目指して作業を行っています。

皆さんの集落でも希望がありましたらお気軽にご相談ください。

## インターンシップを受け入れして

新潟市の公務員専門学校に通う地元今川出身の中村健太さんのインターンシップ（就業体験）をまちづくり協議会の事務局である自治振興室で7月25日から27日までの3日間受け入れを行いました。

地域審議会への出席や市報の取材などのほか、まちづくり協議会が進めている集落の元気づくり計画の策定作業を体験してもらいました。

今川出身ということで、今川集落の元気づくりのために何をすればよいかを考えるため、集落総代さんへの聞き取り調査と集落内をめぐり資源（宝）調査を行い、具体的にどんな取り組みをすればよいかを考え、発表してもらいました。

今川集落は自然に恵まれ、民宿発祥の地として賑わいをみせた時期もありましたが、現在は少子高齢化で若い人も少なく活気がないことから、使われなくなった民宿等を活用し、自然や地域の人たちと触れ合いながら小学生の成長を促す民泊事業を提案してくれました。斬新な発想で地域づくりを真剣に考えてくれた中村君は体験の感想の中で「将来は市の職員になって地域づくりの仕事をやりたい」と力強くコメントしてくれました。

山北地域の若い人材の存在を頼もしく感じたインターンシップの受け入れでした。



総代さんからの聞き取り調査の様子

## 編集後記

この通信が発行される頃にはロンドンオリンピックも閉幕し、高校野球が巷を賑わせていることでしょう。オリンピックでは日本を、高校野球では出身県をどうしても応援してしまいますね。それは誰もが「地域を愛する心」を持っている証拠なのではないでしょうか。

まちづくり協議会も“地域への思い”が集い合い活動へとつながっています。これからもたくさんの思いが協議会に集いますように・・・

